

---

# イカのいる風景

秋間 傑

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イカにいる風景

### 【Nコード】

N3472H

### 【作者名】

秋間 傑

### 【あらすじ】

よくわからない、イカの話です。短いです。

世界はイカでいっぱいだ。

発端は、弟の要望で水族館に行くことになったときのことだ。海洋生物なんて好きでもなかった僕は、弟を見ておくようにという親の言葉を無視し、ずっとイカの水槽の前に鎮座していた。何時間もただイカの泳ぐ姿を凝視していた僕は、帰るころには眼をつむっても瞼の裏をイカが縦横無尽に飛び回るようになっていた。そして、僕に対して親が怒り狂い始めたとき、ふと思ったのだ。

こいつらなんかイカだ。

そうすれば、あーら不思議。父も母も、首の上にてっぷりと太ったイカを乗せているではないか。赤く色を変えながら生気のない眼で僕を罵るそれは、ひどく滑稽に見えた。

それからというものの、僕は周りのすべての人々をイカだと思うことにした。眼鏡で知的なケンサキイカ、ぎゃーぎゃーうるさいアオリイカ、触腕を三つ編みにしたスルメイカ、どれも面白おかしな光景だ。クラスで一番可愛いと言われるあの子も、今ではまんまるホタルイカだ。同時に僕はイカを口にできなくなってしまった。しかしたいして困るようなものでもなく、むしろ生まれて初めての好き嫌いがなんだか嬉しい。

日が経つにつれ、水族館で見たイメージはだんだん薄れていくけれど、足りない部分は妄想で補われるからなんの問題もない。逆にイカごとに可愛い表情を見せてくれるようになるなど、日々進化してくるくらいだ。

ただ、近ごろ生臭くなってきたのが少し気になるところだが。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3472h/>

---

イカのいる風景

2010年12月19日01時06分発行